



道徳の教科化 どうしたらいい？

本年度から小学校で道徳の教科化が実施されました。来年度は中学校でも実施され、小学校・中学校ともに、検定教科書を使用し、文章表現での評価が行われることとなります。小学校ですでに始まっている道徳の授業のあり方を、教科書の教材をもとに考えていきたいと思います。

道徳性は 学校教育全体で

小学校では、検定教科書を使った授業が行われるようになり、先生達は、日々教材研究をし、工夫しながら授業実践を行っています。道徳の授業だけでなく、係活動やグループ活動を中心とした学級活動、総合学習、朝の会や帰りの会、グループエンカウンターやグループワークトレーニングなど、子どもや学級の実態に合わせて、学校生活全体を通して道徳性を育む指導が実施されています。

学習指導要領でも「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」と示されているように道徳教育は、まさに全面実践で取り組む必要があります。日々の学校生活や授業の中などで、子

異なる他者と 共に生きる術

子ども達には様々な対立や葛藤が起き、たくさん「なぜ」「どうして」が生まれてきます。けんかやぶつかり合い、反抗やごまかしなども、子ども達と真剣に考え合うことで「道徳性の発達」のチャンスとすることが出来ます。

そもそも道徳性とは何か。大東文化大学准教授の渡辺雅之氏は、「異なる他者と共に生きる術」であり、共生と共同の価値観であるとしています。それは、学習指導要領第1章総則にある「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と共通しています。そのためには、「子どもが多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を

徳目の押しつけに なっていないか？

多面的・多角的に考えることが求められる(学習指導要領解説)。「考える道徳」『議論する道徳』への転換を図る(学習指導要領)といった観点で授業内容を工夫し実践していくことが必要だと言えます。

様々な工夫をして、子ども達の考えや意見を発表させたとしても、一つの内容項目(徳目)に考えを落とし込もうとするあまりに、それに当てはまらない子どもを考えを扱わなかったり、否定したりするようなことになる場合があります。

「家族愛」の教材に「お母さんのせいさゆう書」(小学4年)があります。たかし君がお手伝いの代金として500円の請求書を母親に渡し、母親は「子どもの病気の看病代」などの項目をすべて0円とした請求書をお返しに渡します。母の無償の愛にたかし君が感謝するという教材です。これを扱った授業が、NHKクローズアップ現代+で放映されました。

「お母さんはどんな気持ちで0円の請求書を渡したか」と教師が問いかけると、多くの子が、「私の宝物はたかしだから、お金はいらない」「家族にはお金をもめない」と発言する中で、ひとりの男の子が、共働きで大変な母親のことを思って「子どもっていいな。私もお金をもらいたい」と発言します。すると、周りの子ども達から笑われ、その男の子は泣き出してしまい、それ以後は、意見が言えな

くなってしまうたという内容でした。「家族の愛は無償」という考えだけで家族愛を考えさせようとしたことから、ひとりの子どもを傷つけることになってしまった事例でした。

家族は、多様です。
特に、現在では、ふたり親の家族、ひとり親(母子、父子)の家族、祖父母と孫の家族、3世代家族、ステップファミリー(子連れ再婚した家族)、里親家族(養子縁組の家族)、同性婚家族、国際結婚の家族、共働き家庭、単身赴任の家庭など何通りもの家族や家庭があります。障害がある家族や病気の家族と暮らす子、いろいろな事情から家族と暮らせない子どももいます。いわゆる「貧困家庭」と言われる家庭もあります。生活困難から「キッる親」と生活する子、虐待を受けている子もいるかもしれません。

しかし、教科書に描かれている家族は、お父さん・お母さん・祖父母がいるいわゆる「標準家族」で描かれていることが多いのが実態です。お母さんはエプロンをして立っている姿、お父さんはソファに座って新聞を読んでいる姿の挿絵が多いです。

学級の子どものたちの家族や家庭にはさまざまな状況が見られます。授業で教科書を扱う際には、どんな家族で描かれているか、学級にいる子ども達がそれを見て違和感を覚えないかなど、事前にチェックする必要があります。そして、指導では、「家族や母親は、こうあるべき」といった特定の価値観の押しつけにならず、子どもたちとさまざまな現状や思いを出し合い、考え合いたいものです。

心のありように 狭めない

さまざまな問題を、心のもち方だけで解決しようとする本質が見えなくなってしまうことがあります。

「親切、思いやり」の教材に「はしのうえのおおかみ」(小学1年)があります。一本橋をわたろうとしたおおかみが、向こうから来たうさぎやたぬきに「もどれもどれ」と追い返し、自分が先に渡っていきま。ある日、自分より力の強いくまに橋の上で出会いますが、くまはおおかみを抱き上げて後ろに渡してくれ、おおかみは感動し、それからは、くまの真似をするようになったという話です。「親切にする」といい気持ちになる」という教材です。

しかし、「譲り合う」以外に方法はないかな?と子どもたちに問いかければ、「橋をもう一本作ればいいと思う」といった視野を広げた考えが出し合えます。さらには、みんなで橋を作るための準備や仕事の分担などで、一人ひとりのことを思いやって考え合う授業にもなります。

「誠実」を学ぶ教材に「手品師」(小学6年)があります。売れない手品師が、一人ぼっちの男の子に手品を披露して勇気づけ、明日も見せる約束をしたその夜、手品師は友人から、明日、大劇場のステージに出られると告げられるが、迷った末、男の子との先約を選択するという話です。約束を守った手品師の誠実さを考える教材です。

物語の前半を読んで、「大舞台に立つか」「男の子との約束を果たすか」の二者択一で活発に議論させておいて、後半で手品師のどこが誠実かを話し合わせるだけで終わると、「大舞台に立ったほうがいい」と考えた子どもは、「自分のことだけを考えた自分はダメな人間なのか」と自信を無くしてしまいます。そこで、教師自身が改作した物語を用意した実践例を紹介します。

もう一つの物語として、手品師は大劇場のステージに立ち、その後大スターとして名を挙げた。彼は、稼いだお金を「あの男の子」のような貧しい子ども達のために使おうと決意していたのだ。自分の夢を叶えて更にはたくさんの貧しい子ども達を救っていた、という話を教師が提示します。どちらがよいかではなく、どちらも誠実で「どっちもよさがあるよね。」と考えさせる話し合いをした実践です。また、子どもが、なぜ、ひとりぼっちで路上にいたのかという視点で考え合えばさらに視野を広げた実践が展開できます。「個人の心のありよう」だけの問題に狭めないで、生活や社会の現状を見つめ、さまざまな視点から解決策を考え合える授業にしたいものです。

「愛国心」を 強調しすぎると…

自分の生まれ育った地域や国が好きなのは自然の感情です。それはどこの国の人でも同じです。チャップリンは、「私は祖国を愛している。だが、祖国を愛せと言われたら、私は遠慮なく祖国から出てゆくと

言ったように、外から強制される時、愛国心は偏狭なナショナリズムに変質します。

日本のすばらしさや日本人であることを強調しすぎると、結果として日本と他の国を同等に見られなくなりま。それは「他者と共に生きる」という道徳性とかけ離れていくことになりま。

教室の子ども達は、全員が日本国籍を有しているわけではありません。日系ブラジル国籍の子をはじめ様々な外国籍の子、在日朝鮮・韓国籍の子、2つの母国を持つ子どもがいます。そういう子ども達への配慮が当然必要になってきます。

「私にとって愛国心は人類愛と同一である。」とガンジーが言ったように、私たちも、愛国心を語るならば、こうした文脈を大切にしたいものです。

身近な問題と 結び付ける

道徳科の学習指導要領解説では、「道徳的諸価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっている。児童には、発達の段階に応じて現代的な課題を身近な問題と結び付けて、自分との関わりで考えるようにすることが求められる。」と示されています。そして、「考え、議論する道徳」の授業が重要だとしています。

「身近な問題」として考え、議論する道徳」の授業のためには、教科書の教材を工夫して活用することも必要になってきます。そのための3つの視点について、

①『物語を読む視点と発問を変える』
前掲「はしのうえのおおかみ」で「譲り合う以外に方法はないかな?」と発問する授業展開例。

②『新しい物語(改作)を提示する』
前掲「手品師」の改作例。

③『社会的視点を取り入れる』
前掲「はしのうえのおおかみ」と「手品師」の授業展開例。
忙しい毎日ですが、教科書の教材を少し工夫することで授業が深まります。

子どもがどう感じる ことが大事

教室には、性格や生まれつきの特性、家庭環境等で、さまざまな子どもがおり、それだけトラブルも起きます。

しかし、いろいろな感じ方、考え方があがる故に、多様な意見を聞き合うことができます。そして、安心して話し合う場が保障されれば、答えが一つではない課題に向き合う力を育てることが出来ます。多様な子ども達がそこにいることを大事にすること、そして、教師も多様な人間のひとりとして、子どもと共に学ぶ姿勢で授業を楽しめたら、道徳教育が素敵な実践になるのではないのでしょうか。

おもな参考文献 渡辺雅之「道徳教育」のバクトルを変える(高文研)
文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別な教科 道徳編」